

4-02 志願者・受験者・合格者・入学者数の推移

【現状説明】 アドミッション・ポリシーに基づき、質の高い学生の確保を目標とした入試を実施しています。

大学院	栄養科学研究科 博士前期課程は、学内推薦入試 2 名、社会人入試 3 名、外国人留学生入試 1 名の志願がありました。博士後期課程においては、試験入試で 2 名の志願がありました。 教育学研究科は、推薦入試で 1 名、社会人入試で 3 名の志願があり、2 名は現職の幼児保育関係者で、1 名は栄養教諭で、教育心理学を学び、現職に活かしたいという理由による志願でした。社会人としての経験を通じて、より高度な知識やスキルの修得を目指す社会人の関心がある一方、昨年度より募集を開始した修士課程（社会人 1 年制）は、志願が無かったため、今後の募集強化が課題となります。 流通科学研究科は、推薦入試 1 名、試験入試 1 名、社会人入試 1 名、外国人留学生入試 4 名の志願がありました。 大学院の募集活動として、関係各所（大学・病院・県庁・企業等）への資料送付、企業への訪問、日本語学校での単独説明会など、募集の幅を少しずつ広げ、志願者数の維持・増加につながっています。
-----	---

4-02 志願者・受験者・合格者・入学者数の推移

【現状説明】 アドミッション・ポリシーに基づき、質の高い学生の確保を目標とした入試を実施しています。

大学	大学の一般選抜において、後期日程を廃止し、B方式（全学部日程）を新設しましたが、志願者数の大幅な変動は見られず、総志願者数は前年度と横ばいの3,587名となりました。 栄養科学科の志願者数は、長期的な減少傾向が継続する中、全入試種別において増加しました。これは、近年の競争率の低下により志願に対しての難易度が下がったことや、受験生の現役志向の強まりが影響しているものと考えられます。 令和2年度に完成年度を迎えたフード・マネジメント学科は、志願者減に転じました。特に一般選抜では、栄養科学科との併願受験が大多数を占めるため、生活科学系の人気低迷の煽りを受けています。その中でも男子の志願者数、入学者数は過去最高値となり、学生募集において男子を起用した広報の強化により、認知度が向上したものと考えられます。 教育学部の総志願者数は、一般選抜A方式（学部個別日程）・センター利用選抜での減少が影響し、前年度比3.4%減となりました。同系統の他大学も同様の志願状況であることから、教員の労働環境に関するマスコミ報道等がマイナス要因となり、教員養成希望者が年々減少していると推測されます。 流通科学部の総志願者数は、社会科学系人気が継続する中、昨年度比1.0%の微増に留まりました。一方、一般選抜A方式（学部個別日程）においては、昨年度、近隣大学の同系統の入試日程がバッティングしたことを境に減少傾向にあります。
----	---

短期大学部

短期大学部の総志願者数は、前年度比 22.1%増の 752 名となりました。センター利用選抜を新設したことも要因の 1 つですが、特に一般選抜の志願者数の伸びが顕著で、前年度比 11.4%増となりました。本学の短期大学部志願者は、一般選抜において大学との併願受験者が多く、短大でありながら大学受験層と同等の学力レベルの受験生が多いことが特徴です。それに伴い、新規導入した大学・短期大学部間の第二志望制度では 32.3%が利用しました。

食物栄養学科は、学校推薦型選抜において微減となりましたが、これは前年度、実質倍率が上がったことによる隔年現象と見られ、定員が 80 名と少ないため志願者数の増減が倍率に大きく影響しています。また、大学 3 年次への編入学を視野に入れた志願者も多く、総志願者数は増減を繰り返しながらも一定数で推移しています。

キャリア開発学科は、ビジネス系分野希望者の減少と近年の短大離れの影響を大きく受けているものの、一般選抜の志願者数は前年度比 66.7%と大きく増加しました。中でも男子が 31.4%を占め、昨年度に続き大学 3 年次への編入学を視野に入れた志願者が増加傾向にあります。

幼児保育学科は、学校推薦型選抜および一般選抜の志願者数において、過去 5 年で最低値となりました。特に一般選抜においては、大学教育学部との併願受験が多いことから、大学教育学部の一般選抜 A 方式（学部個別日程）の志願者数の減少が大きく影響しています。